

共催：他者をめぐる人文学研究会

科研費 基盤(B)「ポスト単一言語主義時代の中東欧文学における多言語性」(22K18469)

【多言語ワークショップ】

異文化コミュニケーションの現在地—バフチンの〈対話〉を手掛かりに

Multilingual Workshop:

The Actuality of Intercultural Communication: Conversation with Bakhtin's “Dialogue”

趣旨

文化間の交流と出会い（損ない）が日常化してきた今日のグローバル化時代の中で、文化間に発生する問題への対応能力の向上を目的として発達してきた「異文化コミュニケーション学」では、ミハイル・バフチン（1895-1975）とその〈対話〉理論が重要視されている。他者の、他者であるということ（他者性）を強調し、前景化するバフチンの理論は、共通の地平を安易に想定することができず、異なる価値観・世界観を持つ者同士による交流が常態化している現代のコミュニケーションの課題を乗り越える上で、多くの示唆を含んでいるように思われる。

バフチンの〈対話〉はまず、「他者との分かりあえなさ」を前提とするものであると言われる（鳥飼玖美子、2021年）。実際にバフチンの著作を紐解いてみると、さらに、〈対話〉がより広範なコミュニケーション理論の中で占める中心的な重要性が見えてくる。バフチンいわく、「対話は言語コミュニケーションの最も単純で古典的な形式である。発話の境界を決定づけることばの主体（話者）の交替は、対話ではことに明瞭になる。」（バフチン、1988年）つまり、〈対話〉とは、「個」と「個」、「自」と「他」の境界線を印づけるものでもある。

本ワークショップでは、日本語文学、英米文学、哲学からの視点と東欧文化圏に関する専門的な知見との交流を通じてバフチンの理論との新たな〈対話〉を行う。第一部では、これまで日本語と英語の二言語使用を取り入れた共同研究に取り組んできた〈他者をめぐる人文学研究会〉メンバーによる研究発表を通して、「異文化コミュニケーション」の再考を試みる。第二部では、中東欧文化圏専門の研究者による研究発表を通して、バフチンの今日的意義に迫る。発表を経て、第三部では発表者およびディスカッサントを交えた全体ディスカッションに移り、相互理解を深める。「ポスト単一言語主義時代」というキーワードに合わせ、すべての発表で二言語による資料を配布し、とりわけ第三部の全体ディスカッションにおいては日本語を「共通語」としつつ、英語、ロシア語、その他の言語の音を響かせるポリフォニー的な空間を醸成し、多言語がある中でこそ可能な〈ダイアログ〉の可能性を来場者とともに実感したい。

開催日時・会場

2024年3月29日（金）13:00～17:00

神戸大学人文学研究科 A棟1階A119（学生ホール）

Date and Venue

Friday 29th March, 2024 13:00～17:00

A119 (Student Hall), Building A, Graduate School of Humanities, Kobe University

プログラム Programme

イントロダクション Introduction

13:00～13:10

「ポスト単一言語主義時代」における異文化コミュニケーションの複雑さと豊かさ

トーマス・ブルック (追手門学院大学)

第一部 バフチンとの対話を通して再考する「異文化コミュニケーション」

Part 1: “Intercultural Communication”: A Reconsideration Based on Bakhtin’s “Dialogue”

13:10～14:40

司会 筒井 瑞貴 (大阪教育大学)

「コミュニケーションの連鎖」への参入—水村美苗とリービ英雄における異文化間対話に関する考察

トーマス・ブルック

ノスタルジーに隠された「文化の衝突」 —ノスタルジー再考

奥堀 亜紀子 (東北てつがく研究所)

「ことばのジャンル」としての第一人称—『キャッチャー・イン・ザ・ライ』における文体の再考

尾田 知子 (大阪工業大学)

休憩 14:40～15:00

第二部 バフチンの〈対話〉の今日的意義

Part 2: The Value of Bakhtin’s “Dialogue” Today

15:00～16:00

司会 中村 唯史 (京都大学)

対話における声の政治性—トマス・ヴェンツロヴァの詩「冬での談話」試論

李 博聞 (京都大学博士後期課程)

バフチンとフォルマリズム：散文の「主人公」の問題を中心に

古宮 路子 (東京大学)

第三部 全体ディスカッション

Part 3: Roundtable Discussion

16:00～16:55

コメンテーター 望月 哲男 (北海道大学名誉教授)

ヴァレリー・グレチュコ (東京大学)

亀田 真澄 (中京大学)

閉会の辞 Closing Comments

16:55～17:00

増本 浩子 (神戸大学)